

訳経僧

鳩摩羅什と母



仏教を伝える父を尊び

仏教を学ぶ母と共に歩み

中国で經典を翻訳した三蔵法師

鳩摩羅什(くまらじゅう)は西暦350年、中央アジア、シルクロードの町、龜茲国(きじこく)に生まれました。母はこの国の王の妹、耆婆(ぎば)です。父はインドで大臣を務めていた鳩摩羅炎(くまらえん)です。そして二人が結婚して出来た子が鳩摩羅什です。
龜茲で仏教を敷衍する父の影響を受けた母と子は、鳩摩羅什が七歳になった時、母と子は親愛する父の許しを受け、経・律・論の三蔵を学ぶために沙漠を越え、インドに近いパキスタンのカシミールに向かいます。



『阿弥陀経』と鳩摩羅什

「♪仏説阿弥陀経 如是我聞 一時佛♪…」と、皆さんご存知の『阿弥陀経』ですが、このお経の中で発声されない部分が一カ所あります。仏説阿弥陀経と如是我聞の間にある「姚秦三蔵法師鳩摩羅什奉詔譯」という言葉です。これは「中国の姚秦という時代(402年)に、經典翻譯者(経・律・論の三蔵に精通した法師)の鳩摩羅什(クマラジュウ)が姚興王の詔(みことり)を奉じて漢訳した」という意味です。
鳩摩羅什は阿弥陀経を漢訳したことで有名ですが、しかし、どのような人物で、なぜ仏教の道を行なったのか知らない方も多いと思います。実は、鳩摩羅什が行なった訳経僧の道のりには、母の大きな支えがありました。
この物語は、幼き鳩摩羅什が父や母の影響を受けて大人になり、仏教を弘めた原点を見ていきます。



物語の一場面



1 鳩摩羅炎と耆婆には子供が生まれ、名前は「鳩摩羅什」と名付けられました。



2 母、耆婆は鳩摩羅什が出家して仏教の教えで生きて欲しいと願っていました。



3 鳩摩羅什と耆婆はパンズダッタのもとで仏教を学ぶためにカシミールへ向かいます。



4 鳩摩羅什は後秦の姚興王に迎えられて長安(西安)に入り、經典の翻訳に没頭します。

◆通販お申込は 電話・FAX・郵便はがき・インターネットで…

075-343-0240

制作・著作・発売元

インターネットショップ
www.snail.co.jp/

仏教伝道教材を製作して55年

すねいる



発行日 2007-10

訳経僧

鳩摩羅什と母

くまらじゅう

DVDで発売 30分

定価3,800円(税込)